

2010年度第2回水工学委員会議事録

日時： 2011年3月8日(火) 18:00-20:00

場所： 東京大学Ⅱ駒場リサーチキャンパス内 生産技術研究所 中セミナー室1(An401・402)

出席者：小松利光（顧問）、砂田憲吾（顧問）、玉井信行（顧問）、中川 一（委員長）、寶 馨（副委員長）、関根正人（幹事長）、田中昌宏（編集幹事長）、泉 典洋、井芹 寧、大槻英樹、沖 大幹、萱場祐一、河原能久、榊山 勉、清水康行、田中 仁、中北英一、原田守博、檜谷 治、道奥康治、矢島 啓、渡邊康玄、朝位孝二、大石 哲、風間 聡、門田章宏、坂井伸一、清水義彦、立川康人、知花武佳、富永晃宏、早川 博、藤田一郎、藤田光一、矢野真一郎、陸 旻皎 [敬称略]

議題：

中川一委員長からの挨拶の後、引き続き以下の事項についての審議が行われた。

《報告事項》

1. 各部会・小委員会の活動報告および活動計画

○水文部会（立川 康人 部会長）：

- ・2010年9月2日(木)12時～13時に平成22年度第2回水文部会を開催し、25名が参加した。
- ・2010年9月12日(日)～14日(火)に球磨川流域見学と研究集会を開催し、10名が参加した。
- ・河川部会への水文部会からの推薦委員として鷺見哲也委員(大同大学)、小林健一郎委員(京都大学)を推薦した。

○基礎水理部会（藤田 一郎 部会長）：

- ・基礎水理シンポジウムを平成22年12月6日(月)9時30分～16時30分に土木学会講堂にて開催した。参加者は47名であった。「河床形態」と「流れの計測」をテーマとして行われ、その中で黒木幹男先生ならびに禰津家久先生による特別講演があった。
- ・二次元河床変動フリーソフト開発グループの活動報告がなされた。

○環境水理部会（井芹 寧 部会長）：

- ・2010 環境水理部会シンポジウムを12月15日13:00-17:00に実施した。場所は東京理科大学森戸記念館第一フォーラム。参加者119名。
- ・2011 環境水理部会シンポジウムを12月中に計画する。タイトルを「流域圏の物質輸送に関する実態評価の現状と課題」とし、赤松良久先生(山口大)が世話人を務める。
- ・環境水理部会研究集会2011を7/7-7/8に開催することを計画中。

○河川部会（藤田光一 部会長）：

河川部会の内規の修正について説明があった。2010年3月末までを期限としてメール審議にかけ、現執行部の任期中に決着させる。

○水理・水文解析ソフトウェアの共通基盤に関する小委員会（立川康人小委員長）：

- ・現状ならびに今後の活動についての説明がなされた。
- ・「水理・水文解析ソフトウェア統合型共通基盤の活用と普及に向けて」と題した研究討論会を土木学会全国大会時に開催することが提案され了承。座長は山田 正先生の予定。

○JHHE 論文委員会（関根幹事長）：

今年度の出版の状況と現在の審査状況について説明があった。今後、これが土木学会英文論文集に改組されていくに先立ち、現在の寄贈先の確認が必要である。公的機関(図書館など)に寄贈されている場合の対応を考えると、いずれ個人に対してもその旨連絡する必要がある。

2. 水シンポジウム in きょうとについて（関根幹事長）

8月11～12日に京都テレサ(京都市内)にて開催する。11日にシンポジウム、12日に見学会を実施する。全体テーマは「人・まち・文化を育む恵みの水 ～ きょうから 「おおきに」の思いを込めて～」。立川先生(京都大学)が企画委員会委員を担当する。第一分科会は水工学委員会の基礎水理部会(藤田部会長)の担当し、「ゲリラ豪雨の実態と避難対策 ～被害に遭わないための心構え～」をテーマとして準備が進められてきている。

3. 平成 21 年度水工学委員会活動度に対する評価結果（関根幹事長）

例年通り A 評価であったことが報告された。

4. 土木学会論文集再編に伴う水工学委員会関連の論文集について（関根幹事長）

[土木学会論文集特集号]

- (1) 再編後の名称は通常号・特集号ともに「土木学会論文集 B1(水工学)」となる。2011 年度より順次新体制に移行する。
- (2) CD 版の論文集を 2 月に発刊した後、12 月に J-Stage 上に特集号 No.4 が公開される。前者が副、後者が正となる。[J-Stage への公表時期を 2 月からあまり後にならないようにできないか?]
- (3) ページ番号は「S_1～S_6」のように表記し、CD 版と J-Stage 版とで表記を一致させる。
- (4) いずれの版の原稿とも来年度よりヘッダーを「土木学会論文集 B1(水工学), Vol.68, S_1-S_6, 2012」のようにする。
- (5) CD 版の論文集の表紙には「土木学会論文集 B1(水工学) Vol.68」と「(水工学論文集第 56 巻)」とを併記してよい。
- (6) 特集号の原稿の投稿・査読システムが今後速やかに用意される。今後、これを利用することも可能。
- (7) 参考：通常号の論文作成に当たり、「Word 自動組版ツール」が開発された。これにより投稿原稿の PDF ファイルが自動生成できるほか、Bib ファイルもつくられる。レイアウトに関する専門業者の校正が不要となるため、経費削減が見込める。2011 年 1 月から本運用となる予定で、現在試行運用中。

[英文論文集]

- (1) 土木学会英文論文集の発行開始時期を当初の計画より 1 年間延期し、2013 年 1 月以降ということになった。そこで、2012 年度までは JHHE 論文集の発行を継続する。
- (2) この英文論文集は J-Stage 上で発行となる。年 1 回以上の発行が必須とされるが、実質的

には登載決定分から順次掲載されていく予定。これまでの JHHE 論文と同様に 5 月までを No.1, 11 月までを No.2 とすることも可能。

- (3) 電子投稿・電子査読のシステムが準備される。
- (4) English Proof Reading を海外に外注。掲載料は無料の予定。
- (5) JHHE(Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering) からのスムーズな移行を図るものとし、大きな変更を加えない。
- (6) JHHE と同様に当面は Selected paper を中心に編集するほか一般投稿の論文も募集する。土木学会論文集特別号(水工学論文集)に加えて通常号からの推薦も受け付ける。
- (7) JHHE 論文編集小委員会を母体として、表記の委員会を組織する。
- (8) 特別な予算措置はなされない見通しであり、メール審議が中心となる。

5. IAHR, 国際会議関連の報告

(1) IAHR Japan Chapter について：

中川委員長から Japan Chapter 第 1 回総会について報告された。小尻利治 先生(京大)を支部長とする役員構成が報告された。副支部長に小松利光 先生(九大), 田中 仁 先生(東北大), 辻本哲郎 先生(名古屋大) が、幹事長に中川 一(京大防災研)が就任するほか、理事 4 名, 幹事 2 名が紹介された。玉井信行 先生が顧問となる。

(2) その他：

玉井顧問から最近の情勢について報告がなされた。

6. 水工学論文集編集小委員会報告 (田中編集幹事長)

- ・ 第 55 巻(2010 年度) 投稿数 379 編, 採択数 283 編, 採択率 75%であった。投稿受付時に 1 件の取り下げ, 1 件締め切り後, 1 件フォーマット違反で受領せず。
- ・ 会員番号取得の厳正化の実施—大きな問題なし。
- ・ 修正意見のアップロードミスが多発。—昨年の提案に基づき, WEB 画面で修正意見の最初の数行に見える改善を行ったにも関わらず, 発生。
- ・ 国際セッション優秀賞は Maheswor Shrestha 氏 (東京大学大学院博士課程) が選出されたことが報告された。
- ・ 著者変更 (削除) 及び講演者変更願いがり, 編集幹事会で審議し以下決定。除対象著者本人の署名入りの申請書が必要。間に合わない場合, そのまま発表頂くか (講演者変更は了), 取り下げて頂く。著者判断は, 著者変更無く, 講演者を変更。
- ・ 講演者変更願 (査読の過程で指導教官が発表・質疑に対応した方が適切と判断) があり, 編集幹事会で審議し, 了承。
- ・ 主査判定に対する編集委員長, 編集幹事長の意見について, 編集幹事会で議論し, 以下決定。水工学論文集全般に関わる事項は, 編集委員長, 幹事長の判断が必要な場合もあり, 採否判定に関わる必要がある場合もある。ただし, 主査の判断を最優先する原則は守る必要がある。主査のやる気を失わないようなケアも必要。
- ・ 二重投稿 and/or 既発表論文があることが査読中にわかり, 返却とした。この件について, 編集幹事会で報告すると共に, 著者にペナルティーを課すかどうか審議・以下決定。ペナルティ

一は課さない。返却理由で十分。ペナルティーを課すとなると、十分な調査が必要。

- ・ 返却理由書では説明不十分であり、返却でも修正意見をつけるべきとの意見あったため、編集幹事会で議論し、以下決定。返却論文に対し、著者から修正意見公表の問い合わせがあったときのみ主査が、内容を再考、修正し、公開する。これをルールとして周知する。
- ・ 国際セッション優秀論文賞の審査方法について、現状の問題点を説明し、改良案の提案を募集。現在は、マニュアルに則り部会長を含む執行部の中から、候補者と関係ないメンバーで審査を行っているが、全分野が対象となり、また本賞の趣旨と照らし合わせて選考する必要があり、最終判断が非常に難しい。田中編集小委員会幹事長より、主に留学生が対象であるため、翌年表彰では問題があるため、従来どおりその年の講演会で表彰が必要。審査は、第一段スクリーニング(5,6編)はこれまで通りの方法で行い、第2段審査を例えば委員長経験者(顧問)のお一人が行い、決定したらどうか、との提案。引き続き次期執行部で検討をお願いする。
- ・ 水工学論文集及び講演会の改革について、沖先生のご提案を紹介。(土木学会論文集通常号との査読方法のダブルスタンダードを避け、通常号と同様な査読を行い、11月末時点で過去2年間の論文を対象に講演論文を希望調査し、講演会プログラムを作成)。本提案を編集小委員会のメーリングリストで議論中であり、引き続き議論継続。関根幹事長より、土木学会論文集の改革がようやく動き出したところであり、直ぐに現行の方法を変更することは難しい、とのコメント。

《協議事項》

1. 2011年度水工学に関する夏期研修会(広島大学)について：担当 矢島 啓 幹事
8月29～30日に広島大学工学部東広島キャンパスにて開催する。海岸工学委員会の担当。テーマは「水工学をとりまく最新技術」。3月末目途に案をとりまとめメール審議を経て確定し、4月上旬にはHPで開催概要を周知できるようにする。
2. 第56回水工学講演会の開催(愛媛大学)について：世話役 門田 章宏 先生
2011年3月6日(火)、7日(水)、8日(木) 愛媛大学城北キャンパス(愛媛県松山市文京町3番)
3. 顧問の推挙について：
慣例にならい前委員長である山田 正 先生(中央大学)を水工学委員会顧問に推挙することが決定された。
4. 委員会構成について：
水工学委員会内に設置されている小委員会の中に休眠状態のものがある。執行部が交代するこの時期に、一度見直しを行うことが提案された。

以上の審議の後に委員長選挙が行われ、寶 馨 先生(京都大学)が新委員長に選出された。

以上